

次号予告

特集 安全・安心・強靱な社会を実現するための課題とOR

大規模スポーツイベントにおける危機管理上の課題

—2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を中心に—伊藤哲朗 (東京大学生産技術研究所)
東日本大震災の影響と復旧・復興に関する定量的データ分析

. Novia Budi Parwanto (Institute of Statistics, Indonesia), 大山達雄 (政策研究大学院大学)
「2020年の東京」に向けた地震問題の点検とOR 東原紘道 (東京大学地震研究所)

ネットワークを考慮した警備ゲームのモデルあれこれ 宝崎隆祐 (防衛大学校)

日本の戦略環境の変化と安全保障OR&SAの基本的役割 阿久津博康 (防衛研究所)

サイバー攻撃と情報セキュリティ 杉野 隆 (国土館大学)

移動距離と並び方が混雑に及ぼす影響について

. 柳澤大地 (東京大学), 小林正弘 (東海大学), 佐久間 大 (防衛大学校)

感染症防護とOR 神藤 猛 (千葉大学)

メンバーリストに登録しよう

会員の方は、本学会のメンバーリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。登録方法については、<http://www.orjs.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

編集後記

●日本各地でのORの普及、活用、発展に関する取り組みが今月の特集で紹介されています。全国各地にはまだまだ手つかずの状態、たくさん課題が残っており、大いにORの手法が活用できるはず。そのためには、OR研究者のみならず、ORを学んだ学生・社会人の実社会での活躍が必要不可欠だと思います。

●3月はORを学んだ若い学生が大学を卒業・修了し、社会へと羽ばたいていく季節です。これから彼女ら彼女らが全国各地のさまざまな現場で活躍していく中で、ふと「これはORで学んだことだ」と思い出す機会が多くあれば、ORという名前は表に出ないとしてもORの手法や理念は脈々と受け継がれているのではないのでしょうか。

●研究・教育機関においても同様で、理論を深化させる研究者、現場にある一つひとつの問題に取り組む研究者、理論を現場で使いやすいように工夫を施す研究者、エンジンや車の両輪と車軸の関係のように、どこも欠けてはならないはずであり、連携を密にとる必要もあります。さらに車を動かすためには、車を動かすドライバーの育成、つまり学生や社会人にORを教え普及させる教育者の存在も重要です。

●裾野を広げつつ足元を固め、頂点をどんどん突き上げていくために、適材適所の役割を果たすことで、数十年後にも「日本になくはないOR」として発展特集が組まれることを願ってやみません。(連池 隆)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 猿渡 康文 (筑波大学)

特集担当編集委員 鶴飼 孝盛 (東海大学)

委員 池辺 淑子 (東京理科大学), 石井 儀光 (国立研究開発法人建築研究所), 鶴飼 孝盛 (東海大学), 小林 隆史 (東京工業大学), 坂本 英夫 (株式会社東芝), 佐久間 大 (防衛大学校), 笹谷 俊徳 (東京ガス株式会社), 佐藤 圭介 (公益財団法人鉄道総合技術研究所), 高野 祐一 (専修大学), 中原 孝信 (専修大学), 生田目 崇 (中央大学), 連池 隆 (早稲田大学), 原田 耕平 (株式会社NTTデータ数理システム), 吉住 貴幸 (日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所)

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成28年3月号 第61巻 第3号 通巻663号

代表者 大宮 英明

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 猿渡 康文

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。

・本誌への広告のお申込みは、明報社 (Tel 03-3546-1337) へ。